

和木館 檀

しゅもくかんびより ◆ 第二号



発行日: 2010年10月
発行: 文化のみち檀木館

「文化のみち檀木館」開館1周年を迎えて

平成22年7月17日に開館1周年

を迎えました。開館からこの1年間では、「コンサート、歌、着物や和のイベント、お雛様の展示、スケッチや作品展示会、シリーズで開催中の「名古屋、この百年を考える」の談話会や落語会、囲碁教室、館内の木を使って「スプーンづくり」など、文化のみち檀木館主催の催しと、貸室利用による芝居やコンサート、展示会、絵や花などの教室やセミナーなど、べ188日間いろいろな場として活用され、多くの来館者の方々に楽しんでいただきました。

昭和初期の「歴史・文化」に触れ、そこから新しい「文化」を発信する。檀木館がこれまでたどつてきた「歴史」を継承しつつ、私たちの手で新たな「歴史」をつくる。それが、「文化のみち檀木館」のめざすところ。これからも多くの皆さんとともに、くつろぎ、楽しみ、使わていきながら、次世代に手渡していく場として、長く大事に育まれる、みんなの街の檀木館としてこの建物は存在していくことでしょう。これからのお文化のみち檀木館」も、どうぞお楽しみください。



「まるはちの田舎キャラクター入門教室 & プロ棋士に挑戦! -プロが教える初心者向けの囲碁教室。プロ棋士との囲碁対局も行いました。(8月8日)



「名古屋発、ゆるキャラの超新星『はち丸』ノベルティ誕生物語『はち丸』人形の誕生物語を通して地場産業再生への願いを伝える展示会。(8月8日～19日)

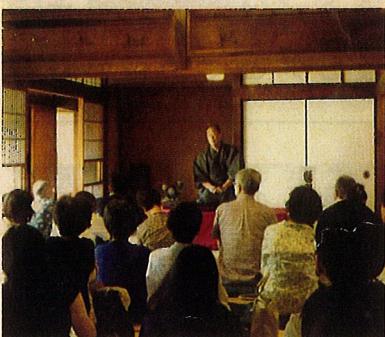


「暮らしの中で楽しむ「昔前の道具たち」江戸～昭和の道具から夏着物、糸車(ひ(杼)、裁縫箱(かせくり)などの展示会とお話し、お茶会など行いました。(8月25日～9月5日)

ヒトガリドウ。
ミニナノイエニ。



「木工家ウイーク2010・NAGOYA 身近な木からスプーンづくり普段ながらの身近で貧乏!?をテーマに鶴亭造園さんの人力の道具で館内の木の枝からスプーンづくりました。(5月8日・9日)



「シリーズ名古屋、この百年を考える「モダニズムで貧乏!?」をテーマに鶴亭造園さんの人力の道具で館内の木の枝からスプーンの落語を聴き、暮らしの中のモダニズムについて談話会を行いました。(6月12日)



「シリーズ名古屋、この百年を考える「まるはちの田舎キャラクター入門教室 & プロ棋士に挑戦! -プロが教える初心者向けの囲碁教室。プロ棋士との囲碁対局も行いました。(8月8日)

平成22年7月17日

文化のみち橦木館

開館1周年

平成22年7月17日には開館記念セレモニーが行われました。その時の開館記念に寄せて、お話をされました中の一部を紹介いたします。



名古屋市住宅都市局長
田宮正道

「市長からメッセージ
が橦木館に届いてい
ます。」

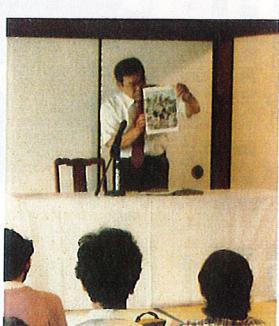
『古いものを大事にす
るのは人間を大切にす
ることと同じ、やさしい氣
持ちになるんです。名古
屋市長 河村たかし』。



橦木町二丁目・三丁目
自治会長 井元佐智子様

「開館1周年、おめで
とうございます。井元家
が住んでいました時は、
人を呼ぶのが大好きな
祖母が山吹谷でセミ採
りをしている子ども達
を連れてきて、ここの中
庭のセミを探らせて遊ば
せたり、父は庭でパーティをして友人達を呼んだり、い
つもいろいろな人が出入りをしていました。そんな関係
もあって、十数年前にここを指定文化財にと話があつた
時に「閉ざされた文化財であつては皆さんに見ていただき
たい」ということになりました。そこで、昭和30年代の終
りにこの像を処分することになった時に、山吹小学校からP.T.A.会
長の二宮金次郎像を譲られたのです。戦前戦後の山吹小学校を見て
きた二宮金次郎像の奥にある二宮金次郎像

なりました。この橦木館もその時代に井元為三郎さんが家族と暮らすための和館と、海外バイヤーのために洋館を建てられました。橦木館は3年前に名古屋市が取得しまして、蔵に眠っていたステンドグラスなどを設置して昔の姿へと戻し、昨年の7月に開館致しました。この1年間で約2万3千人の方々に来館頂き、また講演会、コンサート、展覧会などに使ってもらったりもしました。もともとは市民グループの方々が活用してきた経緯があり、橦木館は貸室なども行っていますので、これからも市民の皆さん文化活動に使ってもらいたい、やさしい気持ちで大事にし、今後もますます活用していっていただきたいと思っています。」



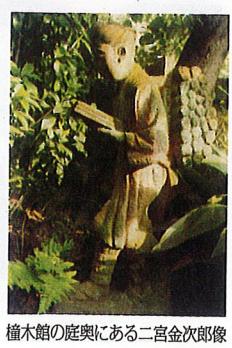
NPO法人
橦木俱楽部理事長
中山正秋

「市民グループによる保
存活動経て、4年前からNPOとして、みんな
で協力して保存してき

ました。21年度より指定管理役を託され、無事1年間を迎えることができました。ありがとうございます。橦木館に関わるようになって、この地区を勉強し、歴史などを調べたりしています。」



絵:尾張名所図会 山吹谷



橦木館の庭奥にある二宮金次郎像

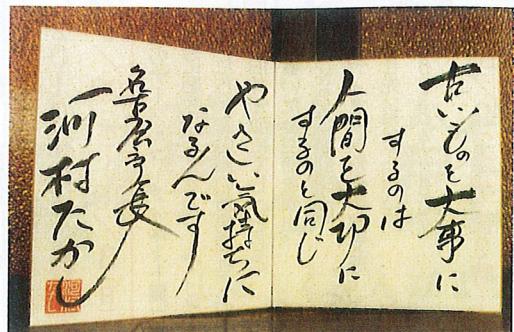
名古屋市は戦災で中心部を焼かれ、古いものがあまり残っていないのですが、それでもよく搜していくと、身近なところに残っています。そのような古い建物などを所有者の方も含め、皆さんで守っていました。名古屋市では古い建物の登録・認定制度を行ふ予定です。古いものをみんなで守って、大事にすると、優しい気持ちになり、町に愛着を持ったり、こんなに良いものがあるという誇りになったり、そんなふうになればと思っています。古い町並みのある中でもこの白壁地区は、大正から昭和の建物が現存していて、もともとは中流武家の屋敷があり、明治・大正期あたりに新興の企業家、資本家の方々が暮らすように

なりました。この橦木館もその時代に井元為三郎さんが家族と暮らすための和館と、海外バイヤーのために洋館を建てられました。橦木館は3年前に名古屋市が取得しまして、蔵に眠っていたステンドグラスなどを設置して昔の姿へと戻し、昨年の7月に開館致しました。この1年間で約2万3千人の方々に来館頂き、また講演会、コンサート、展覧会などに使ってもらったりもしました。もともとは市民グループの方々が活用してきた経緯があり、橦木館は貸室なども行っていますので、これからも市民の皆さん文化活動に使ってもらいたい、やさしい気持ちで大事にし、今後もますます活用していっていただきたいと思っています。」

名古屋市

河村たかし市長 来館

7月の開館記念日に来館の河村たかし市長。



館長メッセージ 吉沢徳貴

名古屋の名物酷暑の夏をなんとか乗り越え、

やっと秋の風を感じる頃になりました。

初秋といつても、ここ文化のみち界隈は、例年ない

残暑の陽炎の中で、何事もなかったかのように静かに

時代を刻み続けています。

文化のみち樟木館も、

7月17日に開館1周年式典を無事終え、

2年目の秋を迎えようとしています。

江戸時代、この界隈は中級武士が闊歩し、

町中では茶道も盛んだったようです。

茶道と言えば、ここ文化のみち界隈には、

伝統と格式のある和菓子屋さんが点在し、

その変わらぬ味を今に伝えています。

秋の栗菓子、とりわけ栗きんとんは、

名店が、旬の味をまつ先に届ける熊本栗や、

ご存じ大粒丹波栗、地元を代表する

美濃栗など、産地にこだわりを持ち続け、

その味を競い合ってきました。文化のみち樟木館も

2年目を迎えて、名店の誇る栗きんとんのよさな伝統と

こだわりを大切に、新たな文化の発信地として、

小粒でもキラリと輝く存在でありたいと思います。



【樟木館 記念スタンプ】

【貸室案内】

貴重な文化財である建物で、
展覧会や音楽会などを開催しませんか。文化のみち樟木館
では、和室を始め、洋室、茶室、
蔵や庭園の貸室を行っておりま
す。是非ご利用ください。
利用の詳細については、
文化のみち樟木館まで
お問い合わせください。

〈お問い合わせ先〉
文化のみち樟木館
TEL 052・9339・2885
FAX 052・9339・28851
電子メールアドレス
shumokukan@oasis.ocn.ne.jp

来館の記念となるスタンプが
できました。館内にある
2羽の青い鳥のステンド
グラスをモチーフにしました。
受付カウンターに設置して
ありますので、記念にどうぞ。

開館1周年を記念して

7月11日 弦楽四重奏のコンサート

弦楽四重奏 ハル・カルネット

オーケストラで活動する4人で構成されたハル・

カルネットのメンバーが、

弦楽四重奏のための日本民謡組曲など、文化のみち樟木館をイメージした曲目でのコンサートを開催しました。



7月17日 樟木町再発見(歴史・昔語り)

歴史語り「戦前の樟木町界隈」西尾典祐氏(作家)

「樟」は讀字なのです。本来は手偏に童「撞」が昭和に入つて木偏に変わり「樟木町」となりました。本来「樟木」の意味は丁の字をさしていく、この町と上堅杉町とで丁状と成ります。あえてこのような町を作ったのは、名古屋城の防御の為でした。」

